

健康寿命延伸政策と体質理論

—治未病という概念の重要性—

鈴木 信孝

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 臨床研究開発補完代替医療学講座

経済産業省は「次世代ヘルスケア産業協議会」を設置し、健康寿命延伸分野の市場創出及び産業育成は、国民のQOL(生活の豊かさ)の向上、国民医療費の抑制、雇用拡大及び経済の成長に資するものとし、平成26年6月に中間とりまとめ概要を発表しています。また、厚生労働省は21世紀における国民健康づくり運動として「健康日本21」を打ち出し、その一環としてsmart life projectを立ち上げ、「健康寿命をのばそう!」というわかりやすいスローガンも掲げています。私は、健康寿命を延伸するための重要なキーワードとして「治未病」を挙げたいと思っています。未病に関しては、日本未病システム学会が掲げている定義が広く用いられており、①自覚症状はないが検査では異常がある状態、②自覚症状はあるが検査では異常がない状態を合わせて「未病」としています。

ところで、補完代替医療(CAM)の扱う領域は非常に広く、伝統医学(中国医学、インド医学)、食事療法、運動療法、ビタミン・ミネラル・微量元素、栄養補助食品(健康補助食品・サプリメント)、アロマセラピー、ハーブ療法、音楽療法、精神・心理療法、温泉療法、磁気治療、鍼灸、漢方、気功、ヨーガ、抗加齢医学に及んでいます。しかし、CAM領域の多くは2重盲検臨床試験がしづらく、また、的確で簡便な評価系がないなどの問題が研究進展を大きく妨げてきたといえましょう。しかし、今回本シンポジウムで公開される60問からなる体質調査票「CCMQ-J」は、CAMのほぼ全領域の評価を可能としており、今後広く用いられる評価系であるように思います。

さて、本年度、これまで本学会を支援してきたNPO法人代替医療科学研究センター等の協力のもとに、「未病体質研究会(Society of Mibyou Constitution: 略称SMC)」が産声をあげました。SMCは、CCMQ-Jにより日本人の未病に関するビッグデータを集積・解析し、これをあらゆる健康産業領域の産学連携研究・開発に活かすことを目的に設立されたものです。SMCは、前述のsmart life projectにも参加しており、今後は、本学会とも密接に連携をとりながら、国民の健康維持・増進に貢献していくと考えられます。

本講演では、とくに健康に関するビッグデータの活用についてコメントします。